

標準委員会 リスク専門部会 津波PRA分科会  
第14回津波PRA分科会議事録

1. 日 時 2012年6月14日（木） 13:30～16:30

2. 場 所 JNES 13B会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員）山口主査（阪大），蛭沢副主査（JNES），桐本幹事（電中研），  
秋山委員（CTC），廣川（喜多委員（TEPSYS）の代理），  
倉本委員（NEL），黒岩委員（MHI），鈴木委員（原技協），竹山委員（中電），  
西野（中井委員（JAEA）の代理），成宮委員（関電），藤本委員（JNES），  
松山委員（電中研），平野委員（東京都市大）（14名）

（欠席委員）木下委員（保安院），安中委員（東電設計），佐竹委員（東大），杉野委員（JNES），  
高田委員（東大），守屋委員（日立GE），美原委員（鹿島建設）（7名）

（常時参加者）根岸（GIS），安田（関電），宮本（四電），関沢（中電），西尾（JNES），杉  
本（東電）（6名）

（傍聴者）小山（電発），博田（THコンサルティング）（2名）

（敬称略）

4. 配付資料

RK2SC 14-1-1	第13回津波PRA分科会議事録（案）
RK2SC 14-1-2	人事について（津波PRA分科会）
RK2SC 14-2-1	津波PRA別冊 評価適用例集（案） 抜粋
RK2SC 14-2-2	津波PRA別冊 評価適用例集 項目整理（案）R3版
RK2SC 14-2-3	事例A サイト・プラントウォークダウン実施において参考とする実 例
RK2SC 14-2-4	事例B 津波ハザード評価の事例について
RK2SC 14-2-5	欠番
RK2SC 14-2-6	事例L 津波PRAの事故シーケンス試解析事例
RK2SC 14-2-7	事例M 津波に対する回復操作の例
RK2SC 14-2-8	事例F 津波の被水・没水に対するフラジリティ評価例（附属書M）
RK2SC 14-3	津波PRA分科会主要スケジュール（案）

参考資料：

参考1 第13回津波PRA分科会議事メモ（案）

5. 議事内容

議事に先立ち、開始時点で委員20名中14名が出席しており、分科会成立に必要な定  
足数（14名以上）を満足している旨が報告された。

(1) 人事について

委員について、資料 RK2SC 14-1-2 に基づいて、桐本幹事から説明があった。常時参加者として根岸氏を登録すること、常時参加者として坂田氏が退任することについて承認された。

(2) 議事録確認

前回議事録について、資料 RK2SC 14-1-1 に基づいて桐本幹事から説明があり、承認された。

(3) 津波 PRA 標準を受けた適用事例集の作成について

桐本幹事から、資料 RK2SC 14-2-1 (本事例集の案) 及び RK2SC 14-2-2 (項目整理案) を用いて標準委員会で説明する予定との紹介がとともに事例集の形式についての説明があった。次に、資料 RK2SC 14-2-2 により、個々の項目についての検討状況の説明があった。これを念頭に入れて、各適用事例集の確認を行った。また、各事例のタイトルについて議論された。

資料 RK2SC 14-2-3 により、安田常時参加者から、以前からの変更点として、着眼点一覧を追加したこと、福島と東海第2の事例を入れたこと、IAEAの報告書より抜粋した図面を掲載したこと、及びこれらの内容について説明があった。出展の明記、図の拡大、わかりやすい丁寧な記載、着眼点一覧表の修正等を実施するが、概ね作成済みとなった。フォート・カルフーンについては津波の事例ではないが可能であれば記載する方向で検討することとなった。

資料 RK2SC 14-2-4 により、松山委員から津波ハザード評価の事例についての説明があった。B.1 はボリュームが少ないので再掲、B.2 は DL できることを付記し、サマリを記載する方向。また、本資料の最後に記載のある、地震後の知見が未反映であることについては、全体に係わる内容であることから、まえがきに「地震の知見を反映すべき」といった内容の記載を1P程度にまとめて記載することとなった。

資料 RK2SC 14-2-6 により、西尾常時参加者から事故シーケンスの解析事例について、改訂部分の説明があった。地震による溢水を考慮すること、PWDの結果を反映すること等、留意事項を書き加える方向となった。

資料 RK2SC 14-2-7 により、安田常時参加者から、津波に対する回復操作の例として、提出されたストレステスト報告書から電源復旧にかかる時間の紹介があった。誤記修正他、付属書Oに記載のある時間余裕「4時間」については、記載を削除することとなった。

た。また、誤用を防止するための補足の記載を検討することとなった。

資料 RK2SC 14-2-8 により、山口主査から、美原委員担当分のフラジリティ評価例が紹介された。ただ、付属書Mを再掲したものであり、被水、没水例とのタイトルと相違することから、美原委員に評価例の有無を確認し、対応を検討してもらうこととなった。

また、再度資料 RK2SC 14-2-2 により、個々の項目についての検討状況を確認した。4. 漂流物については、論文リストを掲載する、1 F 2 F のタンク、車の事例をピックアップする等の対応を行うこととなった。10. のハザードとフラジリティの連続性については、さらに議論が必要であり、議論を継続して今回の事例集からは外すことも視野に入れることとなった。

平野委員より、地震PRAの作業会に津波PRA側からも協力して欲しい旨連絡があった。

### (3) 今後の予定等について

資料 RK2SC 14-3 により、桐本幹事からスケジュール等の説明があった。

次回、第15回分科会は8月、お盆の前後を予定。

以上